



内陸アジアの宗教復興

藤本 透子
民博 機関研究員

本館では、若手研究者を育成・支援することを目的として、若手主体の挑戦的な共同研究を募集している。今回はそのひとつを紹介する。

よみがえるカザフの祝祭

草原にカザフの天幕(移動式住居)が数多く建てられ、その内部では豊富なウマ肉料理がふるまわれて、死者たちのためにクルアーン(コーラン)が朗唱される。やがて、馬上競技と競馬がはなやかに始まる……。アスとよばれる伝統的祝祭の光景である。

一九世紀の文献にあざやかに描かれるこの祝祭の現代版を、わたしがカザフスタンで初めて見たのは一九九九年のことだった。カザフスタンがソ連邦の一部だった約七〇年余りのあいだ、この祝祭はほとんどおこなわれず、カザフスタン独立後になって復興したのである。

祝祭に欠かせないカザフの天幕は、民博本館の中央・北アジア展示に実物を見ることのできる。カザフの天幕は世界観をあらわしており、炉と天窓は家族の象徴、入口は死者の霊魂が戻ってくる場所とされる。すでに天幕が日常生活で使われることはないが、近年になって祝祭に多く登場するようになった。

現代における伝統的な世界観や宗教の復興は、何を意味するのだろうか。

内陸アジアの多文化世界

宗教的な祝祭が復興したり、人びとが宗教に関心を高めたりしているのは、カザフスタンにとどまらない。周辺地域に目を転じ

したという、単純な図式では理解できない。また、復興した宗教も伝統的な形態そのままではなく、現代的な適応を遂げていることが、次第にわかってきた。

越境する宗教

現代における宗教復興へのアプローチとして、もうひとつ重要と考えられるのが、地域社会の人びとの越境への着目である。内陸アジアやその周辺地域では、政治体制の変化にもなつてたびたび国境を越えた移動が生じた。ひとつの民族であっても、国境によって隔てられたことにより宗教的知識に多寡が生まれるなどの変化もみられ、再び行き来できるようになったとき、どのような現象がおきるのか注目される。

これまでのところ、チベット人の寺院再建がじつは越境によって支えられていることや、タイ北部の雲南系イスラーム教徒のモスク建設は、移住者が故地とつながることによって実現しえたことなどが共同研究員によって明らかにされている。冒頭で述べたカザフスタンに話を戻すと、復興した祝祭でわたしが見た伝統的な移動式住居は、じつはモンゴル国から移住してきたカザフ人のものであった。

国家体制の変化やそれともなう越境は、生と死、性、病いといった、人にとって根源的な問いを顕在化させる。現代における



復興した祝祭にて。カザフの伝統的天幕。カザフスタン

ると、類似の現象が多くみられることに基づく。視野を広げて現代における宗教復興という問題を考えるため、大学院生や研究員などの若手を中心に、民博共同研究(若手)「内陸アジアの宗教復興」を開始した。

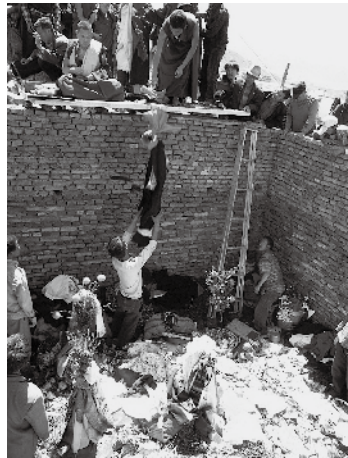
この共同研究では、特に中央アジアからモンゴル、チベット、さらに中国や東南アジア大陸部にかけて広がる多文化世界に着目している。歴史的にゆるやかな連続性を持ち、移動が頻繁に生じてきたこの地域では、イスラーム、シャマニズム、ボン教、チベット仏教、上座仏教など多様な宗教が信じられてきた。これらの宗教は、隣り合ったり重なり合ったりしながら複雑な展開をみせている。



シャマンによる治療儀式。中国内モンゴル自治区(撮影・趙芙蓉)

宗教の復興は、いかに近代化をへても、宗教的観念をまったくぬきにして生と死に対処することは難しいことを示しているのかもしれない。社会主義という近代化のかたちをへて、越境しながら生きる人びとの宗教復興から目が離せない。

仏塔に大量の供物を納めるボン教徒。中国四川省(撮影・小西賢吾)



社会主義をへた宗教復興
内陸アジアやその周辺地域には、二〇世紀になると複数の社会主義国が成立した。社会主義は、基本的に「神はいない」とする無神論の立場をとる。ただし国や時代によって政策には相違もみられ、宗教が完全に否定され続けたわけではない。

たとえば旧ソ連では、一九三〇年代にはげしい反宗教政策がとられた後、一九四〇年代半ば以降はイスラームが限られた範囲内でのみ許容された。一方、中国では共産党政権樹立直後には信仰の自由が保障されたが、その後の文化大革命などで寺院などが破壊され、一九八〇年代から徐々に復興している。チベット仏教やボン教の寺院再建、内モンゴルにおけるシャマニズムの隆盛などはその一例である。

社会主義と宗教のあいだには、相克関係とともに並存関係もしばしばみられ、社会主義体制の転換や終焉とともに宗教が復興

民博共同研究(若手)
「内陸アジアの宗教復興——体制移行と越境を経験した多文化社会における宗教実践の展開」
2010年10月〜2013年3月
第2回研究会(2011年1月22〜23日)では、中国ムスリムの越境と宗教復興、カザフスタンの死者儀礼、モンゴル人シャマンの治療儀礼などに関する発表を予定。